

岩手大学農学部
附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 教授
募集要項

附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターでは、下記募集要項により教授1名を広く公募します。選考は本学の定める手続きにより行い、結果は応募者本人にお知らせします。

1. 職種・人員：教授・1名
2. 所属：農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターに所属し、持続型農業生産技術分野を担当します。大学院は農学研究科農学生命専攻に所属します（平成29年度に改組が予定されています。改組後は総合科学研究科農学専攻に所属の予定です）。
3. 担当教育研究専門分野：持続型農業生産技術分野
主な担当科目
学 部：農場実習Ⅰ・Ⅱ、農場特別実習、総合フィールド科学（分担）、総合フィールド科学実習（分担）、栽培理論Ⅰ・Ⅱ（分担（実習）、教育学部）
大学院：農業技術学特論
その他：教養教育科目・学部専門教育科目の一部（分担）
4. 応募資格
 - (1) 博士の学位を有する方
 - (2) 当該専門分野において教授にふさわしい研究業績（特に、栽培技術学（食用作物又は果樹を除く園芸作物））を有する方
 - (3) フィールドにおける生産技術を教授できる方
 - (4) 本センターの教育研究及び地域貢献を熱心に行える方
 - (5) 本センター、特に、滝沢農場の運営を全うするにふさわしい能力と豊富な経験を有する方
5. 任用予定日：平成28年10月1日
6. 提出書類
 - (1) 履歴書1通（写真貼付、署名、捺印のあるもの。市販の履歴書で可）
 - (2) 研究業績目録1部（別紙作成要領を参照）
 - (3) 主要論文別刷10編以内（コピー可）
 - (4) これまでの研究概要及び教育経験（2000字程度）
 - (5) 今後の教育・研究に対する抱負（2000字程度）
7. 公募締切日：平成28年7月4日（月）（必着）
8. 応募書類提出先及び問い合わせ先
提出先：〒020-8550 盛岡市上田3-18-8
岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育センター
澤口勇雄 宛
（応募封筒には「附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター教授応募書類在中」と

朱書きして、簡易書留で郵送して下さい。なお応募書類は返却致しません。）

問い合わせ先：電話：019-621-6233、e-mail：sawai@iwate-u.ac.jp

9. 書類選考の後、面接を実施して最終選考を行います（この場合の交通費等経費は自己負担となります）。

10. その他

(1) 農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育センターのホームページURLは下記の通りです。

<http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/~fsciu/>

(2) 岩手大学は男女共同参画を推進しています。業績及び資格等に係わる評価が同等と認められる場合には、女性を優先的に採用します。産前産後休暇、育児休業及び介護休業を取得していた場合（性別は問わない）には、選考の過程で考慮します。両住まい手当制度や子育て・介護中の研究者に対する支援策等については
岩手大学ホームページ (www.iwate-u.ac.jp/gender/)
をご覧ください。

「研究業績」の作成について(2007. 4)

農学部教員人事委員会

研究業績は、A4判の用紙に A. 著書・訳書、B. 学位論文、C. 総説・論説、D. 原著論文 (a) 学術雑誌^{*1}、(b) 紀要^{*2}、(c) プロシーディングス、E. その他^{*3}、F. 報告書・事業報告書等^{*4}、G. 特許・設計等、H. 国際学会発表^{*5}、I. 国内学会発表^{*6}の順に、下記 の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り返してください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度(日本文の場合フォントのサイズは10.5～12程度)にしてください。

*1: 学会誌、国際誌等を年代順に記載する。

*2: 試験場報告、研究所報告等を含む。

*3: 商業雑誌、資料等を記載する。

*4: 調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等を記載する。

*5: 最近5カ年について記載する。(教授選考の場合、I. 国内学会発表は不要)

*6: 著者名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。

*7: 英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。

1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)

*8: 学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。

*9: 論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はポールド(太字)とする。

*10: Journal は略記する。

*11: 発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

〈記載例〉

研 究 業 績 (著書・学術論文等)

A. 著書・訳書

1. 岩手一郎(単著)(1990)

農学について. ○○出版社, 東京, 100p.

2. 岩手一郎(分担執筆)(1991)

北上山地における畜産業, 「岩手の農業」(大学太郎, 学部一郎編), △△堂, 盛岡, pp.10-20.

3. 岩手一郎(分担翻訳)(1992)

トウモロコシ, 「アメリカの農業」(A.B.Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京, pp.20-30.

4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆)(1993)

Agriculture in Japan, 『Agricultural Sciences』(Eds.: D. E. F. Green and H.I. James), Bio Press, London, pp.20-30.

B. 学位論文

1. 岩手一郎(1980)

XYZに関する研究. [◇◇学修士または修士(◇◇学) ○○大学]

2. 岩手一郎(1983)

ABCに関する研究. [◇◇学博士または博士(◇◇学) ○○大学]

C. 総説・論説

1. 岩手一郎(1994)

岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No3: 1-5.

2. 岩手一郎, 盛岡次郎(1995)

岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15: 215-220.

D. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 岩手一郎(1985) 岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 5: 15-20.

2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986) Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J. Anim. Sci. 20: 100-105.

3. Iwate, I. (1990) Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25: 15-20.

(b) 紀要

1. 岩手一郎(1985)

トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 17: 30-40.

(c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995) Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp.101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎(1990)

北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No125: pp.35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎(1993)

イヌワシのPCB汚染. 自然動物調査報告(△△県), pp.10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎(1993)

イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

H. 国際学会発表(最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)

Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表(最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎(1997)

岩手の野生動物. 第 100 回日本野生動物学会講演要旨: 25-26.